

# 日本計量新報

計測と科学  
毎週日曜日発行  
日本計量新報社  
東京都千代田区神田錦町3-11-8  
(武蔵野ビル)  
〒101-0054 TEL 03-3295-7871  
FAX 03-3295-7874  
http://www.keiryu-keisoku.co.jp/  
振替口座 00140-5-12935  
購読料年間25,000円(消費税別)

定量計量専用機  
**Pack NAVI**  
速くハカル、  
楽にツメル  
  
Yamato  
大和製衡株式会社 tel:078-918-5577  
http://www.yamato-scale.co.jp/

### 今週の主な記事

大和製衡が知財功労賞大臣表彰、オムロンは長  
官表彰、日計振調査報告書をWEBで公開 ①面  
第15回全国計量士大会特集 ②③面  
地域計量機関人事異動(3) ④面  
JCSS登録・認定事業者一覧 ⑤面  
NMS研究報告9月(2)、10月(1) ⑥面  
決算「東京製機」、社説 ⑦面  
第67回計量士国家試験合格者発表 ⑧面

## 大和製衡 17年度「知財功労賞」 経済産業大臣表彰を受賞

質量計測機器などを製造販売する大和製衡(兵庫県明石市茶園場町5-22、川西勝三社長)は、2017(平成29)年度の「知財功労賞」経済産業大臣表彰を受賞した。知的財産権制度を有効に活用し円滑な運営・発展に貢献のあった企業と評価された。

### 多数の特許取得・活用など評価

経営層の知財意識の高 評価したポイントは次のと  
さ、「フィッシュアナライ  
ザ」や「トラックスケ  
ール」組合せはかり「デ  
タウェイ」に関する多  
数の特許取得、活用が評価  
されたもの。特許庁が評

から提出されたアイデア  
は知財部門が技術内容を  
確認して先行調査を実施  
し、製品化を意識して権  
利範囲が狭くならない  
か、ノウハウとして秘匿  
するものはないか等、経  
営の目線を含めて確認。  
他社の上手な請求項の表  
現ぶりなどを参考にし  
て明細書の記載文言の技術  
向上にも取り組んでいる  
。また、国内外の競合  
企業の出願情報を漏れな  
く入手するため、過去10  
年以上の特許情報を自



時速80kmの速度で走行するトラックの質量や重心の高さを一瞬で測定する世界初の重心測定機である「トラックスケール」

社の製品分類コードに体  
系化した社内データベ  
ースを整備している。

は、国内およびアメリカ  
やヨーロッパなどで特  
許を取得し、世界的にも高  
いシェアを持っている。  
計量の新たなコンセプ  
トを創出するため、大学  
等と共同で自社の体脂肪  
率の測定技術を転用して  
魚のおいしさの指標の1  
つである脂質の含量を非  
破壊で測定する魚用品質  
状態判別装置「フィッ  
シュアナライザ」を開発  
し、特許出願して商品化  
した。この商品で魚の旨  
みや鮮度を客観的に測定  
することが可能となり、  
全国の漁協などで魚のフ  
ランド力強化や漁価低下  
を止めるための有効策と  
して期待されている。

「知財功労賞」とは  
「知財功労賞」は、わが  
国の知的財産権制度の発

### 政省令改正 準備が整ったも のから順次

2017(平成29)年  
以降、2016年11月  
に出された「計量行政審  
議会答申」の答申内容に  
基づき、政省令の改正が  
実施される。

改正政省令は、4月以  
降、準備が整ったものか  
ら順次公布される予定で  
あり、改正の施行時期は  
内容によりそれぞれ検討  
されることになってい  
る。

また、政省令の改正案  
は、それぞれ30日間のパ  
ブリックコメント(意見  
公募手続)が実施される  
予定。

### オムロンヘルスケア

## 17年度「知財功労賞」

### 特許庁長官表彰を受賞

オムロンヘルスケア

(京都府向日市寺戸町九  
ノ坪53、荻野敷社長)は、  
2017(平成29)年度  
知財功労賞で、知的財産  
権制度活用優良企業とし  
て「特許庁長官表彰」を  
受賞した。

同社は、商品を創出す  
るために、商品企画・開  
発・デザイン・知財部門  
が一丸となって、特許権  
意匠権、商標権の活用を  
推進している。

### 日本計量振興協会

## 16年度10012調査研究報告書

### 最新調査をWebサイトで公開

日本計量振興協会(日 10012)に関する  
計振)は、『平成28年度計 最新の調査研究報告書であ  
測管理システム(ISO 10012)に関する。』

1)調査研究報告書』を、 テムの調査研究委員会  
同会のWebサイトで公 (大竹英世委員長)は、  
開した。計測管理システ 計測管理の国際規格であ  
ム(ISO/JIS Q 10012)を企 見直し答申(案)で、適

業内における計測システ  
ム構築と活用のための指  
針および課題解決のため  
の有効なツールと考え、  
調査・研究をしている。

2016年8月の計量  
行政審議会の計量制度の  
管理の骨子の強化及び品

正計量管理事業所規格の  
指定基準の計量管理方法  
として、ISO 100  
12 規格を選択可とい  
う方向性が示された。そ  
の結果を受け、同委員会  
では、新たに4人の新規  
メンバーを迎え、従来の  
普及活動に加えて、同規  
格の第3者認証の具体的  
方法の検討も開始した。

大竹委員長はこの報告  
書で「各企業の計量計測  
事項と要点解説」第3章



高分解能の追求  
最小表示1μg

- 無風イオナイザー標準装備 ※特許申請中
- 導電性ガラス風防採用
- フィルター用計量皿標準付属 (BM-20/22のみ)
- クロスライドドア
- USBとRS-232Cの2方式インターフェースを採用

6機種をご用意  
ひょう量: 22g~520g  
最小表示: 0.001mg~0.1mg  
標準価格: ¥320,000~¥800,000(税抜)

高精度分析天びん **BM** シリーズ